

積水化成品工業株式会社

東京都新宿区西新宿2-7-1 〒163-0727
新宿第一生命ビルディングTel. 03-3347-9711
ir_pr@sekisuiCASEI.com

www.sekisuiCASEI.com

2024年11月6日

積水化成品工業株式会社（本社：大阪市北区西天満2-4-4 社長：柏原正人）の、グループ会社 Sekisui Kasei U.S.A., Inc. の副社長 岡野徹也が、「プラスチック業界におけるパーフルオロアルキルおよびポリフルオロアルキル物質 2024 (PFAS 2024)」にスピーカーとして登壇し、溶液重合を用いたポリマー材料「Fluxflow」を紹介しました。

「プラスチック業界におけるパーフルオロアルキルおよび ポリフルオロアルキル物質 2024 (PFAS 2024)」に登壇

～溶液重合を用いたポリマー材料「Fluxflow」を紹介～

1. 概要

「PFAS 2024」は、PFAS を取り巻く規制状況に関する洞察や、禁止措置の実施に伴う技術的および経済的課題について議論を行うカンファレンスで、2024年10月29日から30日に、メリーランド州・ボルチモアで開催されました。

PFAS は、健康リスクや自然環境での残留期間が長いことへの懸念などから、近年欧州を中心に規制対象が広がっています。当カンファレンスでは、PFAS を含まない新たな代替品や代替技術に焦点を当て、業界の持続可能性への転換を推奨しています。対象範囲は、フッ素ポリマー市場を超えて、離型剤・発泡剤・加工助剤・固着防止剤・難燃剤・防錆コーティングなど、プラスチック業界で使用される PFAS を含む可能性のある添加剤やその他の物質に及びます。PFAS は、PTFE 粒子を液体中に均一に分散させるための添加剤としても使われています。

積水化成品は、非フッ素系分散剤の早期実用化に注力しており、本講演では、生体模倣技術を活用した、フッ素元素を含まない分散剤として「Fluxflow」を提案し、当該素材の技術的な利点と、その潜在的な用途について紹介し、大きな反響を得ました。



「PFAS 2024」登壇風景

2. 特長

「Fluxflow」は、ポリマー構造制御技術を駆使して、分散剤やバインダー（結合剤）などで求められる新たなニーズに応える、液状あるいはワックス状のポリマー材料です。分散剤用途では、フッ素元素を含まない、環境負荷を低減できる素材として使用可能です。

- 環境負荷低減 : フッ素を含まず、ムール貝の接着現象を応用した分散剤として、環境負荷を低減します。
- 高濃度分散 : PTFE 粒子など、表面自由エネルギーの低い粒子を水中に高濃度で分散させることが可能です。
- シンプルなプロセス : 分散剤は水溶性であるため、シンプルなプロセスで水分散液を調製できます。

3. 今後の展開

積水化成品グループは、「Fluxflow」の用途探索と開発体制を強化し、有望マーケットにおける採用を加速させていきます。

以上